

令和 8 年度

「運営に関する計画」

日本橋小中一貫校

令和 8 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・本校は、施設一体型小中一貫校として、平成 29 年度に開校した。開校当初から多くの課題に対して、教職員、保護者、地域と共に解決解消に取り組み、学校運営の基盤を策定してきた。大阪市教育振興基本計画に従い、令和 7 年度末までの期間を更なる本校の成長期と位置づけ、組織構造の見直しと一層の発展が求められてきた。
- ・児童生徒への意識調査結果から自己肯定感が全国平均と比較すると、低い現状であるため、キャリア教育の充実、学力向上の推進などを進めることが求められている。
- ・ICT教育を積極的に推進させることや、カリキュラムマネジメントを展開するなど、教職員の資質向上、授業力向上を更に進める必要がある。
- ・開校以来、児童生徒への深い愛情と、本校教育活動へのご支援を戴いている地域の方々や、PTA活動に尽力される皆様と今以上に連携を重ね、本校の教育活動に取り組む必要がある。
- ・改正義務教育標準法（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律）に基づく学級数の増加に伴い、教室配備や施設整備を計画的に行う。小中一貫校としての組織運営を強固なものとし、業務効率の向上、教職員間の協働、働き方改革を進める。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 85%以上にする。（令和 7 年度 小学校 82.3%、中学校 83.5%）
- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 80%以上にする。（令和 7 年度 小学校 69.5%、中学校 79.1%）
- ・年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。（令和 7 年度 小学校 4.7%、中学校 7.6%）
- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 83%以上にする。（令和 7 年度 小学校 81.8%、中学校 74.7%）
- ・特別支援コーディネーターを 1 名以上配置し、情報交換会（小中連絡会）を毎月 1 回以上実施する。
- ・校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょうけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を毎年 95%以上にする。（令和 7 年度 小学校 93.0%、中学校 90.0%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストにおける国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストにおける算数・数学の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 85%以上にする。(令和 7 年度 小学校 76.3%、中学校 80.0%)
- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 70%以上にする。(令和 7 年度 小学校 65.5%、中学校 48.0%)
- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」)が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 85%以上にする。(令和 7 年度 小学校 81.4%、中学校 79.5%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 80%以上にする。(令和 7 年度 小学校 69.9%、中学校新設)
- ・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教職員をゼロにする。
(令和 7 年度 2 人)
- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 75%以上にする。(令和 7 年度 小学校 74.0%、中学校 63.0%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

〔基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〕

- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 82.4%、中学校 83.6%以上にする。(令和7年度 小学校 82.3%、中学校 83.5%)
- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 69.5%、中学校 79.1%以上にする。(令和7年度 小学校 69.4%、中学校 79.0%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(令和7年度 小学校 4.7%、中学校 7.6%)

〔基本的な方向2 豊かな心の育成〕

- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 81.9%、中学校 74.8%以上にする。(令和7年度 小学校 81.8%、中学校 74.7%)
- ・特別支援コーディネーターを1名以上配置し、情報交換会(小中連絡会)を毎月1回以上実施する。
- ・校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょうけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を、小学校 93.1%、中学校 90.1%以上にする。(令和7年度 小学校 93.0%、中学校 90.0%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〔基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上〕

- ・小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストにおける国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストにおける算数・数学の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 76.4%、中学校 80.1%以上にする。(令和7年度 小学校 76.3%、中学校 80.0%)

〔基本的な方向5 健やかな体の育成〕

- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 65.6%、中学校 48.1%以上にする。(令和7年度 小学校 65.5%、中学校 48.0%)
- ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」)が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 81.5%、中学校 79.6%以上にする。(令和7年度 小学校 81.4%、中学校 79.5%)

【学びを支える教育環境の充実】

〔基本的な方向6 教育DXの推進〕

・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 70.0%、中学校 70.0%以上にする。(令和7年度 小学校 69.9%、中学校新設)

〔基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〕

・時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教職員をゼロにする。(令和7年度 2人)

〔基本的な方向8 生涯学習の支援〕

・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 74.1%、中学校 63.1%以上にする。(令和7年度 小学校 74.0%、中学校 63.0%)

3 本年度の自己評価結果の総括

日本橋小中一貫校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 〔基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〕 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 82.4%、中学校 83.6%以上にする。（令和7年度 小学校 82.3%、中学校 83.5%） ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 69.5%、中学校 79.1%以上にする。（令和7年度 小学校 69.4%、中学校 79.0%） ・年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。（令和7年度 小学校 4.7%、中学校 7.6%） 〔基本的な方向2 豊かな心の育成〕 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 81.9%、中学校 74.8%以上にする。（令和7年度 小学校 81.8%、中学校 74.7%） ・特別支援コーディネーターを1名以上配置し、情報交換会（小中連絡会）を毎月1回以上実施する。 ・校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を、小学校 93.1%、中学校 90.1%以上にする。（令和7年度 小学校 93.0%、中学校 90.0%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部） ・小学校、中学校ともに5月の「いじめ（いのち）について考える日」に校長による講話を実施する。また、学期に一度行ういじめアンケートにより、いじめの有無を把握し、適切な聞き取りと指導を行う。 ・学年の指導では、「いのちの学習」や「障がい理解」、「性教育」、「国際理解」等の講話や授業をすることで、いじめがおこらないよう事前に対策を行う。	
指標 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 82.4%、中学校 83.6%以上にする。（令和7年度 小学校 82.3%、中学校 83.5%）	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部） ・長期休暇明けの個別相談シートを活用して事前に聞き取りをする等のいじめ対策を行う。	

指標 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 69.5%、中学校 79.1%以上にする。(令和 7 年度 小学校 69.4%、中学校 79.0%)	
取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部) 生活指導支援員、課題解決支援員、区役所等と連携を密にし、不登校児童生徒の把握、改善策を積極的に行う。	
指標 ・年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(令和 7 年度 小学校 4.7%、中学校 7.6%)	
取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(生活指導部) 「いのちの学習」や「障がい理解」、「性教育」、「国際理解」等の講話や授業をすることで自他を認める心の育成に努める。また、SNS 安全教室、薬物乱用防止・非行防止教室、交通安全教室、避難訓練を実施し、自他ともに大切な存在であることを指導する。	
指標 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 81.9%、中学校 74.8%以上にする。(令和 7 年度 小学校 81.8%、中学校 74.7%)	
取組内容⑤【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部) 小中一貫校の特性を活かし、生徒情報交換会(小中連携会)を実施し、学年や職員連絡会を通して学校全体の共通理解を図る。また、中学校入学前の特別支援学級に在籍している児童の様子を確認する。	
指標 ・特別支援コーディネーターを 1 名以上配置し、情報交換会(小中連絡会)を毎月 1 回以上実施する。	
取組内容⑥【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(健康教育部) 児童生徒の美化意識を育むために、清掃強化週間を設定する。また、清掃用具や清掃活動の方法を整備する。	
指標 ・校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょうけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を、小学校 93.1%、中学校 90.1%以上にする。(令和 7 年度 小学校 93.0%、中学校 90.0%)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

日本橋小中一貫校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 〔基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上〕 ・小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストにおける国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストにおける算数・数学の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 76.4%、中学校 80.1%以上にする。（令和7年度 小学校 76.3%、中学校 80.0%） 〔基本的な方向5 健やかな体の育成〕 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 65.6%、中学校 48.1%以上にする。（令和7年度 小学校 65.5%、中学校 48.0%） ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 81.5%、中学校 79.6%以上にする。（令和7年度 小学校 81.4%、中学校 79.5%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】（学力向上部） 習熟度別少人数授業を実施し、個別最適な学びの推進に取り組み、きめ細やかな授業実践を図る。	
指標 ・小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストにおける国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力向上】（学力向上部） 習熟度別少人数授業を実施し、個別最適な学びの推進に取り組み、きめ細やかな授業実践を図る。	

指標 ・小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストにおける算数・数学の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力向上】(学力向上部) 話し合いの機会や時間の確保をし、聞く力を鍛え、友達の考えと自分の考えとの共通点や相違点を見つけさせ、知識をさらに深める指導をする。	
指標 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 76.4%、中学校 80.1%以上にする。(令和 7 年度 小学校 76.3%、中学校 80.0%)	
取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(健康教育部) 部活動の充実、持久走や運動委員会での取り組みを日常に結び付ける工夫をし、教室での声かけや家庭とも連携し、継続できる体力づくりをする。運動場、体育館の開放をする。体育館に比べてグラウンドで活動をする生徒が少ないので、グラウンドでの活動が増えるようなはたらきかけを行う。	
指標 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 65.6%、中学校 48.1%以上にする。(令和 7 年度 小学校 65.5%、中学校 48.0%)	
取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(健康教育部) 食育、保健教育の年間計画通り実施し、各家庭とも連携を図りながら、啓発活動を充実させる。	
指標 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること)」が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 81.5%、中学校 79.6%以上にする。(令和 7 年度 小学校 81.4%、中学校 79.5%)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

日本橋小中一貫校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 〔基本的な方向6 教育DXの推進〕 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校70.0%、中学校70.0%以上にする。（令和7年度 小学校69.9%、中学校新設） 〔基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〕 ・時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教職員をゼロにする。（令和7年度2人） 〔基本的な方向8 生涯学習の支援〕 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校74.1%、中学校63.1%以上にする。（令和7年度 小学校74.0%、中学校63.0%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】（学力向上） 学習者用端末の活用研修を行うとともに、デジタルドリル「navima」などの活用を呼びかける。また、会議や情報の共有にTeamsやGoogle classroomなど用いることで、有用性を教職員に伝え、授業などで活用しやすくしていく。	
指標 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校70.0%、中学校70.0%以上にする。（令和7年度 小学校69.9%、中学校新設）	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（管理職） 教職員の年次有給休暇取得に向けて勧奨していく。また、夏期に5日間と年末年始3日間、学校閉庁日を設定する。	
指標 ・時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教職員をゼロにする。（令和7年度2人）	
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】（教務部） 朝の読書や読み聞かせの日を継続し、読書に親しめる機会とする。また、調べ学習でも図書室や図書館から借りた本を活用するなど読書機会を増やしていく。	

指標 ・小学校学力経年調査、年度目標アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 74.1%、中学校 63.1%以上にする。 (令和 7 年度 小学校 74.0%、中学校 63.0%)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	